

QI センター

業務内容

業務内容は下記の通り

1.院内における品質改善活動

I.病院全体指標

当院では毎年、病院全体で優先的に改善に取り組む指標を5つ選定し、病院全体指標（Wide Indicator）として掲げています。それらは主に病院全域に関連する課題や、他病院との比較（ベンチマーク）から浮かび上がった当院が優先的に改善すべきものに焦点を当てて選定しています。そうして選ばれた指標ごとに改善チームを結成し、担当となった職員をQIプロモーターとして任命し改善に取り組んでいます。QIセンターはプロモーターとして参加もしくは各チームと連携しながら、データの抽出や分析等の支援を通して改善活動に関わっています。また四半期ごとに各チームが集うプロモーター会議を開催し、互いの進捗状況や意見交換を行っています。こうした病院全体指標の状況は、四半期ごとに徳洲会の執行理事会に報告しています。

II.部署指標

先に述べた病院全体指標とは別に、各部署においても部署指標を設定し、改善に取り組んでいます。部署指標は病院全体指標とは異なり、その部署特有の課題や改善が必要なことについて設定しています。そして月に一度QI委員会を開催、各部署の担当者が参加し進捗状況や情報共有を行っています。QIセンターは指標の設定段階からどのような指標にするか等についてのアドバイスやデータの収集、分析方法についての支援を行い、管理をしています。

III.QI大会

毎年9月に院内全体で実践されている改善活動について発表するQI大会を開催しています。発表される演題は病院全体指標をはじめ、診療科や部署を問わず行われている改善活動を対象としています。近年は新型コロナウイルスの影響もあり対面とオンラインのハイブリッドで開催しています。発表された演題は、聴講した職員による投票を行い、上位3演題を優秀演題

として表彰しています。さらに表彰された3演題は、年度末に開催される徳洲会グループQI大会へエントリーされ、選考の結果によっては全国大会で発表する機会を得ることもあり、予選会としての意味合いもあるものと考えています。

2.その他

I.日本病院会QIプロジェクト

当院は2013年より日本病院会が実施するQIプロジェクトに参加しています（QIプロジェクトは2010年より開始）。本プロジェクトには日本全国から352病院（2021年度）が参加し、52項目の改善指標が収集され、各病院にフィードバックが行われます。改善指標はDPCデータを用いて算出されるものと病院独自で集計するものがあり、QIセンターはそのデータ作成と提出を担っています。他病院とのベンチマークを行うことが出来る貴重な機会であり、正確なデータ提出に努めています。

II.JCI審査

QIセンターはJCI受審を契機に発足したと言っても過言ではありません。JCIが求めるのはまさに継続的な品質改善であり、QIセンターが担う役割は大きいものです。具体的にはQPS（Quality Improvement and Patient Safety）カテゴリーを主に担当し、審査に耐えるよう準備をしています。2021年11月には4回目の更新審査があり、無事に審査を終えることが出来ました。サーベイヤーが述べられていた「品質改善は終わりなき旅路である」という言葉が強く印象に残った一年でした。

業務実績

1.2021年度病院全体指標

- ① DPC 期間Ⅱを超える長期在院患者の減少と新入院患者数の増加
- ② 退院後7日間以内の予定外再入院率の低減化
- ③ 医療用ライン・チューブに関するトラブルの低減化
- ④ 身体抑制率の低減化

QI センター

⑤ 外来診療待ち時間の低減化

2.2021 年度部署指標

140 指標（JCI 要求指標を含む）

3.湘南鎌倉総合病院 QI 大会結果

最優秀演題賞：「患者誤認ゼロへ」 放射線科 室賀幸代 副主任

優秀演題賞：「身体抑制率の低減化」 脳神経内科 山本 大介 部長（プロモーターリーダー）

QI 奨励賞：「より良い退院後の生活を目指して～退院時リハビリテーション指導数増加の取り組み～」 リハビリテーション科 西村 彰紀 副室長

4.徳洲会グループ QI 大会結果

臨床部門 最優秀賞：「患者誤認ゼロへ」 放射線科 室賀 幸代 副主任

審査委員長推薦賞：「身体抑制率の低減化」 脳神経内科 山本 大介 部長

展望/抱負

QI センターは 2014 年に発足され、QI という文化も幾分か浸透したのではないかと感じます。しかし品質改善は、患者中心の医療を実現するために取り組むべきことであり、今後はより結果（アウトカム）にフォーカスした活動が必要ではないかと考えています。また我々の知識向上やスキルアップも更なる課題であるため、積極的な学会発表や参加を行っていきたいと考えています。当院の職員全員が、自然体で品質改善に取り組めるような文化の醸成に努めたいと思います。